

1950年代日中台関係の風波における京劇公演に関する台湾調査

文学研究科 博士課程 3年

林 昉

台湾

2019年1月10日～2019年1月25日

計画の概要

申請者は1956年の梅蘭芳訪日公演の始末を検討しながら、戦後1950年代の日中台関係変局を把握することを試みている。これまでの先行研究では、公演の実現における中国共産党側の働きは圧倒的に注目されているが、一方で日本側の動きについては日中友好協会と朝日新聞の民間交流レベルの位置付けにとどまり、政党と政府、特に与党と指導者の働きかけがほとんど言及されていないことも事実である。しかし、日本の新聞・雑誌の記事を確認すると、この公演は国交のあった台湾の中華民国政府より迎えた親善訪問団（同年4月）や国劇訪日公演団（1958年）のどちらと比較してもより大きくメディアの注目を浴びていて、ついに文芸界の関心をはるかに超えて一般民衆まで影響力を伸ばしていた。それに、こうした広報量の格差に加えて、当時にまだ実際に講和条約を締結せず対戦状態中の中共政権が送った京劇団に対して、旅券の発行は絶対に容易ではないことであった。なので、日本政府の後押しがなかったとは考えられないであろう。この公演に対しては、台湾の中華民国政府も見逃してその足を引っ張らないわけにはいかず、情報の収集から阻害計画まで積極的に対応していた。

今回の研究調査を行う前に、申請者は日本に公開された公文書と、当時の民間組織関係者、指導者並びに官僚の回想録と新聞記事を全力で収集していたが、戦後日中台関係ないし東亜冷戦史への位置付けと影響を明らかにするためには台湾側の公文書と新聞記事も参照すべきであると考えていった。しかしながら、日本には戦後台湾の新聞資料が非常に乏しい。例えば京都大学にしても、戦後台湾三大紙の中でわずかに『中央日報』（まだデジタル化できず）が所蔵されるのみである。また、戦後台湾政府の内外政策を操った蒋介石、蔣経国両大統領の指示、国民党中枢と中華民国外交部との公文書も（特に現在、「陸港澳」の公民に対しては）台北にある国民党党史館（月水金開館のみ）と国史館館内でしか閲覧できない。ちょうど、今回の海外研究助成は申請者に、台北への現地調査と資料収集の大切なチャンスを与えたのである。中国大陸人の旅券申請制度によって、最長として15日間の台湾滞在で、政治大学国際関係研究センターの旧友と記者の台湾人同窓生への訪

問とともに、政府公文書と新聞記事を中心に、1956年の梅蘭芳訪日公演に関する台湾側の史料調査を展開していた。

成果

15日間の調査中は日記を書き続けていた。調査の実際的日程と進捗は下表に示されるようです。

日時	場所	調査進捗
1月11日	国家図書館	1950年以降「梅蘭芳」に関する新聞記事を調べる。新発見：1956年の公演に対抗するために、最初には台湾の国民党は「北平李麗」に訪日公演させようとしていた。「北平李麗」と戴笠、梅蘭芳との個人的かかわり。
1月12日	国家図書館	『蔣中正先生年譜長編』（第十冊）を調べる。李麗の晩年回顧録『誤我風月三十年』を半分読む。後に調べる：1956年6月沈觀鼎新駐日大使と重光葵外相との30分ほど初相談。
1月13日	国家図書館	『蔣中正先生年譜長編』（第十一冊）、『沈觀鼎文存』を調べる。「梅逆蘭芳」、「市川」、「京劇」、「国劇」に関する新聞記事を調べる（未済）。後に調べる：「中央日報」社論、匪情述評コラムの作者。
1月14日	国民党党史館	「廖承志」（未済）、「第六組」（未済）、「梅蘭芳」、「重光葵」、「鳩山」に関する公文書を調べる。
1月15日	国家図書館	『蔣中正先生年譜長編』（第九、十二冊）を調べる。「国劇」に関する新聞記事を調べ続ける。新推論：1956年の梅蘭芳訪日公演は国民党の文化外交政策に影響を与え、台湾側の国劇・平劇復興を促したのかもしれない。1950～1960年代は国共両党の「演劇外交」競争の激しい時代であった。
1月16日	国民党党史館	「蔣経国 特種党務」（未済）、「国劇」、「平劇」、「京劇」に関する公文書を調べる。新思考：国民党党史館の直接的関係史料が予想より少ないために、国史館、介寿劇院と国家図書館延平分館への調査も必要であろう。
1月17日	国家図書館	『蔣中正先生年譜長編』（第七、八冊）を調べる。後に調べる：1954年8月頃、文学、演劇、映画、絵画と音楽の各方面に同時に行われていった文化清潔運動とその促進会（「籌備会」）。

1月18日	国民党党史館	「国劇」に関する公文書を調べ続ける。新考案：1956年梅蘭芳の訪日公演を手がかりとして、国共両党が推し進めた京劇の海外公演を具体的に比較しながら研究の視野を広げる。
1月19日	国家図書館	『蔣中正先生年譜長編』（第六冊）と『蔣経国手札』（未済）を調べる。
1月20日	国家図書館	『蔣経国手札』、『梅蘭芳之死及其他』、『重数民国往事：從傅斯年到梅蘭芳』、『齊如老與梅蘭芳』、『蒋介石密檔與信函』（未済）を調べる。
1月21日	国民党党史館	「国劇」に関する公文書を調べ続ける。
1月22日	国史館	「梅蘭芳」（四件）、「国劇」（一件）、「平劇」（二件）に関する公文書を調べる（未済）。新発見：戦後1947～1948年に日本に駐在した第三、四組の工作簡報には、物資の返還と賠償に関わる詳細のみならず、文化物資の接收と日本における広報政策と情報工作に関する詳細も記述されている。それは戦後日本における国共両党の文化広報外交の争奪戦の原点とも言えろ。
1月23日	国民党党館、政治大学国際関係研究センター、国家図書館	「国劇」、「中日」（1954年12月、1955年8月二件）に関する公文書を調べる。政治大学国際関係研究センター（1950年代に国府の後押しで発足した台湾最初の共産党と中国大陸研究所であって、数多くの日本人の研究者も招聘した）を再び訪問する。該センターの図書館館員である妻さんと政大商学院図書館館員である孫さんに80年代の研究センターの思い出話を聞く。『陳克文日記（下）』と『蔣公大事長編（第13冊）』を調べる。
1月24日	国家図書館本館、国家図書館延平分館	『陳克文日記（下）』、『蔣公大事長編（第13冊）』、『蒋介石密檔與信函』と博論一本を調べ続ける。延平分館で「梅蘭芳」（特に梅蘭芳の海外公演、戦後台湾の国劇復興）についての書籍を調べる。
1月25日	国史館	「平劇」に関する公文書（二件）を調べる。

